
ぶっぶ君の冒険

源雪風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぶつぶ君の冒険

【Nコード】

N2095K

【作者名】

源雪風

【あらすじ】

紙芝居ぶつぶ君の伝説の始まり始まり！

サテサテ、ぶつぶ君はどんな冒険をするのかな？

オチだってあるぜい。

読まなきゃ損ってモンよ。

「サアサア！寄ってらっしやい見てらっしやい。紙芝居の始まりだよー。今回のお話は、ぷっぷ君の伝説！始まり始まりー。」
どんどん（たいこの音）パフパフ（ラッパの音）

今から三十年前のこと。

魔法の力を持つ小学生、ぷっぷ君がいた。

客「変な名前。」

「魔法使いだからじゃん？」

「それなら魔法で、もつとマシな名前にすればいいのに。」

「本人は、気にいってんのかもよ。」

さてさて。

ぷっぷ君には悩みがあった。

魔法の力が弱まってきているんだ。

客「変な名前だからだよ。」

そこで、魔法の力を貯めるために、シャンバラへジャンバラヤを食べに行くことにした。

客「貯めるためって、ダジャレ？」

「シャンバラとジャンバラヤも、そうだとしたら、下手なダジャレだね。」

「それにしても、シャンバラってどこだろう。」

「シャンバラでチャンバラの方が、ダジャレとしては、成功してるよね。」

「チャンバラの方が、話は盛り上がるし。」

いつもなら、魔法でひとつ飛びなんだ。

でも、かわいそうに、ぷつぶ君に、ひとつ飛びする魔力は残ってない。

さてさてどうするぷつぶ君！

客「どうするもこうするも、シャンバラに行くしかないだろ。」

と、いうわけで、ぷつぶ君は電車乗り換えて行くことにした。
果たして、ぷつぶ君は、無事に乗り換えできるのだろうか！

まず、帝都線の電車に乗ったぷつぶ君。

五駅目で降りないといけない。

しかし、ぷつぶ君！

こっくり居眠りを始めた。

これでは乗り過ごしてしまうかも。

危うし！ぷつぶ君。

客「安っぽいピンチだなあ。」

ぷつぶ君！

もう五駅目だよ！

起きて起きて！

その時、奇跡が起こった！

踏切のうるさい音で、ぷつぶ君は不死鳥のように目覚めたー！

客「それは、奇跡じゃなくて偶然じゃ・・・。」

「偶然と奇跡は紙一重ってことじゃないかな？」

「不死鳥のようには大げさでは？」

「不死鳥を見たことなんてないから、判断できないや。」

よかったよかった。

ぷっぷ君は、乗り換えができた！

次は三つ葉線の電車に乗ったぷっぷ君。

三つ葉線は人が多くて、ぷっぷ君はあっぷっぷになってしまった。

客「あっぷっぷになるって？」

「酸欠のことか？」

「またダジャレか。」

あっぷっぷになりながら、命がけで降りるぷっぷ君。

人ゴミを切り抜けて、改札から出ると、シャンバラだ。

客「やっと着いたね。」

シャンバラの街は、道路がキャラメルみたいな煉瓦で、敷き詰められている。

「うわぁ。美味しそう。」

ぷっぷ君は感動した。

建物は、みんなクリーム色で長四角。

客「ぷっぷ君は、よっぱとお腹が空いているんだね。」

「どうして？」

「食べ物に例えてばかりいるから。」

ジャンバラヤ屋さんは、山のとっぺんにある。

山には、ロープウェイがある。

けれども、お金がかかったちゃう。

ここで、お金を使ってしまうと、ジャンバラヤ代が、足りなくなってしまう。

客「そこは、余分にお金を持ってきておこうよ。」

「ぷつぶ君は、小学生だから、たぶん親からお金を少ししかもらえなかったんだよ。」

「ところで、山のとっぺんにジャンバラヤ屋があつて、客、来るのか？どうせなら街に作ればいいじゃん。」

「現に、ぷつぶ君が行こうとしてるじゃないか。」

そこで、ぷつぶ君は、歩いて山登りをする決心をした。

幸い、山はあまり高くない。

ガッツだ！ぷつぶ君！

客「小学生で、一人きり山登りか。」

「いくら山が低くても大変じゃないかな。」

「大丈夫。魔法が使えるくらいだから、ぷつぶ君は、ただものじゃないよ。」

山登りを始めてすぐのうちは、花を見たり、雲を追いかけて、ぷつぶ君は、楽しんでた。

けれども、半分登ったところから、酸素が薄くなった！

本日三度目のピンチだ！

またもや、ぷつぶ君が、あつぶつぶになっちゃった。

どうなる！どうする！ぷつぶ君！

君ならきつと出来るはずさ。

客「また出てきた。あつぶつぶ。」

「あれ？三度もピンチであつたっけ？」

「一つ目は、寝過ごしそうになったこと。二つ目はあつぷつぶ一度目、三つ目はあつぷぶ二度目じゃないかな。」

「魔法が弱っていることは、ピンチにいけないの?」

「本日のピンチじゃないから、いいじゃん。」

ぷつぶ君は、ポッケにチョコレートが入っているのを思い出した。

「五粒入ってる!」

早速、一粒だけ食べた。

ちよつと元気になれた。

ちなみに、このチョコレートは、バレンタインデーに、母親からもらったものだ。

客「山で迷ったら甘いものを食べる。」

「迷ってないと思うんだけど。」

「きつとこれから迷うんだよ。」

「それにしても、都合良くチョコが出てきたね。」

「親からもらったって、リアルだね。」

「変な名前だから、もてないんだよ。」

「名前にこだわるねえ。」

ぷつぶ君は、チョコを全部食べてしまった。

これが、後々の運命を変えることになる。

しばらく歩いたぷつぶ君。

もう、ぷつぶ君には、どっちが前で、どっちが後ろか、分からなくなつた。

ふらふらで、頭もぼんやりするし、もうチョコもない。

客「ぷつぶ君、危険な状態だ!」

「まあ、何とかなるでしょ。」

「・・・チョコ食べたい。」

ぷっぷ君は、それでも、前っばい方に、休まず進んでいった！

客「少し休憩すればいいのに。」

すると、角砂糖のような建物に、明りが灯っているのが見えた！

やったね、ぷっぷ君！

夢中になって、角砂糖の方に走っていく。

ああ、そのスピードの速いこと！

角砂糖がどんどん大きくなっていく！

ななんと！ぷっぷ君は、建物の入り口で力を使い果たした。

そこでバタリと倒れちまった！

これじゃ、トイレに行きたいのを我慢して、ようやくトイレに行け

たと思ったら、便器の前でもらすようなものではないか！

立ちあがってくれ！ぷっぷ君！

もうすぐそこじゃないか。

ドアの向こうに、ジャンバラヤはあるんだよ！

客「トイレの例え、いらないのでは。」

「でも、そう例えたい気持ち、分かるよ。あとちょっと頑張れば届くの！」

「だって、せっかく盛り上がったのに、いきなりトイレの話だよ。」

「僕、トイレ行ってくる。」

「おいおい。今いいところだよ！」

「すぐ帰ってくるから。」

客の一名、トイレへ走る。

紙芝居屋のおじさんは、トイレに行った客が戻ってくるまで、待った。

「ごめんごめん。」
紙芝居屋「さあて、話を続けようか。」

すると、ぷつぶ君が倒れた音に気付いて、店の中から、ウエイトレスさんが出てきた。

ウエイトレスさん、あなたは救いの神ですぜ。

ウエイトレスさんは、ぷつぶ君を抱きかかえた。

そして、店内の暖炉の前のソファーに寝かせてあげた。

ぷつぶ君は、徐々に正気になった。

そこで、ウエイトレスさんが、

「お客様、ご注文は？」と、聞いた。

ぷつぶ君は、もちろん

「ジャンバラヤ。」

と、答えた。

ああ、よかった。

ついにジャンバラヤが食べられそうだ。

ぼんやりしていると、キッチンから、美味しそうな匂いがしてきた。

そして、ついに、ジャンバラヤが来た！

ぷつぶ君は、自分が人間であることを忘れ、ガツガツ食べた。

おお！体全体に力が満たされていく！

やったね！

ついについにぷつぶ君は魔法の力を取り戻したようだ。

客「一時はどうなる事かと思ったけど、よかったよかった。」

「・・・ジャンバラヤ食べたい。」

帰りは、魔法の力で、一気に我家に戻ったぷつぶ君。

しかし、ぷつぶ君はゾツとした。

ジャンバラヤで回復した魔法の力を、帰ってくる為に全て使ってしまった！

あらま、ぷつぶ君、おまぬけさん。
終わり。

客「うわ、電車賃分損しただけじゃん！」

「ツメが甘いね。」

紙芝居屋「実は、ぷつぶ君というのは、俺なんだよ。」

「えっ？おじさんが？」

紙芝居屋「今でも、この時損した分の電車賃を稼ぐために、こうして紙芝居屋をしているんだよ。」

「そうなんだー。」

紙芝居屋「というわけで、紙芝居の後に、お菓子はいかがでしょう！チョコと、うまか棒ジャンバラヤ味が十円だよ！」

「買っちゃう！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2095k/>

ぷっぷ君の冒険

2010年12月13日18時09分発行